

海蔵



令和三年七月二十日(火)

題字は、海蔵学校時代に本校玄関に掲げられていた額（海蔵小学校百年誌（1975年）に掲載）の文字を基にしています。

一学期の成果と今後に向けて

本日、終業式を行いました。保護者の皆様方におかれましては、さまざまな教育活動にご理解とご協力をいただき、誠にありがとうございました。

さて、リモートで行った終業式では、校歌斉唱の後、校歌の歌詞に触れ、「黒けむりはく筒ばしら」で始まる一番をもとに郷土・海蔵について、また、二番で「平和の道をうちたてて」と歌われていることにふれ、戦争についてそれぞれ話しました。

校歌が作られたのは今から約七十年前です。当時の時代背景を知ることにはなかなか難しくなりました。しかし、校歌に込められている意味や願いは郷土の歴史と密接につながっており、それらを発達段階に応じて理解していくことは、子どもの心の成長のうえでも大変重要であると思います。

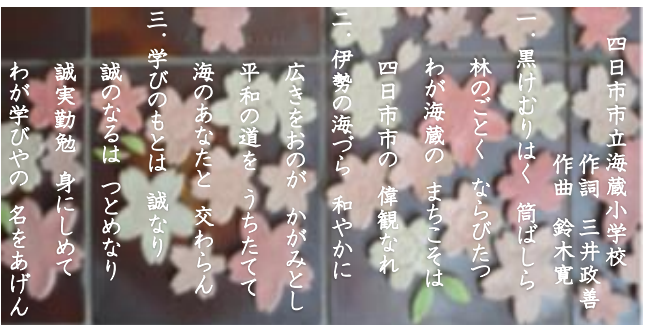
終戦の日を迎える夏休みには、戦争の歴史を風化させないよう、学ぶ機会を持っていたければありがたいと思います。

また、校歌の三番に出てくる「誠実」「勤勉」という視点で振り返り、授業の様子、挨拶や掃除等の姿から、すばらしいと感じた例を挙げ、私からの評価といたしました。

「誠実」とは嘘偽りがなくことであり、自他をいたわり大切にできることだと思えます。礼儀を重んじ、相手を敬う言動

が一層見られることを今後の期待といたしました。

明日より夏休みを迎えます。子どもたちにとって有意義で安全な夏休みとなることを願っております。



夏の安全と健康について

七月五、六日に、四年生と二年生が、着衣水泳を行いました。海蔵小学校では、毎年、この二学年で行っています。

外部指導員の方から説明や実演をいただいたあと、子どもたちは、実際にプールに服を着て入り、水に落ちてしまった時の状況を体感しました。

「服を着ているときは、仰向けで大の字になって浮く」「泳ぐよりも、浮いて待つ」「ランドセルは浮くので浮き輪がわりにできる」といった自分がおぼれた時の心構えや、「ひものついた浮き（ブイ）は、その人より遠くへ投げる」という救急時の対応など、教わらなければ分からないことをしっかりと教えていただきました。

学校で着衣水泳を行うようになってから水の事故で犠牲となる小学生が全国的に減っているということですが、まずは危険なところ

に近づかないことが何よりも大切です。夏休みの間も、新型コロナウイルスの感染防止を心掛けるとともに、交通事故、不審者による被害と合わせて、自分の命や健康を自分で守れるよう、ご指導をお願いいたします。

「夏休みの生活」より（抜粋）

- 交通ルールを守り、事故に合わないようにします。
- ・道路への飛び出しや自転車、バイクの危ない乗り方をしません。
- ・自転車に乗るときは、ヘルメットをかぶるようにします。
- 知らない人からの誘いかけにはのりません。
- ・『いかのおすし』をしっかり守ります。

すいかに の おおごえをだす
ぐににげる し らせる

「タブレットドリル」に係る経費の支出について

夏休み中の一人一台タブレットの持ち帰りについて、六月三十日付「いぬなし」でお伝えいたしました際、「タブレットドリル」の導入についても併せてお知らせさせていただきました。

さて、このタブレットドリルの本年度分の費用（児童一人当たり約七十円）につきましては、PTA協力費から支出させていただきたく存じます。ご了承をいただきますようお願い申し上げます。